

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 1階 りんご		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今日一日を楽しく愉快に朗らかに」過ごせるよう、支援します」を標語とし、朝の送り出しの時、出勤者全員で声を出し復唱、自覚し、利用者さんには常に優しく笑顔で接するように心がけている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年4月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム幸」は、JR小樽駅からバスで10分以内、バス停留所から1分と交通便のよい場所に建っている2ユニットの事業所である。広い敷地内に法人のデイサービスがあり、裏庭の散歩中にデイサービスの利用者や日々交流している。開設12年が経過する中で地域環境や状況の変化もあり、町内会行事に利用者の参加は難しくなっているが、管理者は町内の役員会議に出席したり、敷地内に除雪の置場を提供するなどして地域との関わりを積極的に進めている。消防署と町内会役員の協力の下で避難訓練を行い、自主訓練も実施し災害時に備えている。看護師資格のある2ユニットの管理者は利用者の体調変化に早めの対応で各医療機関との連携の下に健康を管理し、本人・家族の安心感につながっている。事業所内では月末の会議で内部研修や職員間で意見を交換し個別の課題に沿った介護計画を作成している。暖かい時期に毎日散歩したり、買い物や外出行事などに出かけ、冬季には廊下での歩行訓練や体操を行い、可能な限り身体的な機能の維持に向けて取り組んでいる。利用者に優しくゆっくり話しかけるよう標語に明記して申し送り時に唱和し、職員は会話で個別の意向や趣味などを把握しながら、カラオケやCDを流したり、囲碁、絵画作品などを話題にして温かい姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日一日を楽しく愉快に朗らかに過ごせる」「地域との交流」を掲げ、毎日レクリエーションを行い、毎月町内回覧板に広報を出している。	地域密着 型サービスを踏まえた事業所独自の理念を掲げ、理念の内容を標語に盛り込んで申し送り時に唱和している。職員は日々意識して利用者が楽しめるように対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が町内会議に参加。お祭りの子供神輿見物など、利用者と地域の人が触れ合えるよう企画実践している。	子供神輿を玄関前で見物し米袋を渡してお祭り気分を楽しんでいる。法人デイサービスの行事で、幼稚園児が遊戯などを披露する際に観に行くこともある。食糧品店の買い物や犬の散歩をしている近所の人と挨拶を交わし触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内役員会などで介護支援の意見交換や「幸便り」という広報を町内回覧板に出している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に手紙を出し、参加呼びかけを行い、利用者の近況報告や役員との意見交換を行っている。	昨年度は会議を4回開催し、事業所の報告、防災、外部評価などで情報を交換し、意見を参考に議題を工夫している。家族の参加が少ないので今後はテーマを記載した会議案内を送り、話し合った内容の議事録送付も検討している。	家族に会議案内を事前に送り、参加できない家族の意見も得て会議に活かされることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営指導において、ホームの実情を伝え、積極的に指導を受けている。	運営推進会議に行政担当者が参加し、情報などを得ている。市の集団指導に職員も参加し、担当者の説明に沿ってマニュアルをもとに身体拘束禁止に関する書類を作成している。研修会の内容を内部研修で伝達し職員間で共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前にケガの治療のために身体拘束を行った例があり、そのような場合でも拘束をしないためにどのようにすればよいかを話し合っている。	内部研修で事例に沿って拘束をしない方法を話し合い、安全面に配慮してケアを行っている。研修の中で「禁止の対象となる具体的な行為」についても確認している。丁寧な言葉遣いなどを標語にし、申し送り時に唱和してケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	優しく丁寧な言葉遣いに留意し、利用者のストレスにならないような介護に努め、荒っぽい介護は指導している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の生活やケアに必要な物品購入の為、後見人センターとれんらくを取り、適時活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族が理解と納得されるまで丁寧に時間を取って説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画立案時、利用者に意見、要望が無いかわかっている。また、家族の来訪時は家族にも要望などをうかがっている。	家族の来訪時に本人の状態を丁寧に報告し、介護計画の意向も確認している。特に健康に関する意見が多く、「伝達ノート」に記載し内容を共有している。2か月毎に幸便りを送り暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、申し送りを行い、意見交換している。また、管理者は意見箱を設置し、日常でもよく職員の意見、提案を傾聴している。	月末の会議では研修のほか、主にケアについて意見を交換し、伝達ノートに記載して介護計画に反映させている。必要に応じて個別面談を行っているが、職員の意見を吸い上げる方法を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務実績などを公正に評価し、向上心が持てるよう、日常会話で働きかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を行い、外部研修へも参加をよびかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会に応じて、勉強会などに参加し、包括支援センターの助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話構築の為、訴えや要望を傾聴し、安心できるよう真心で接するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望を傾聴し、丁寧な説明や安全確保をした上での介護サービスへの要望繁栄に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへの入居前より、面談を何度も行い、介護計画を立て、「その時」まず必要としているサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや日常会話において、時に軽い冗談やくだけた会話をを行い、楽しいコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を伝え、家族の要望を傾聴し、本人と家族の絆が守れるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人を本人の居室で談話できるよう支援している。	昔からの友人、また知人の来訪がある。手紙のやり取りをしている方には切手の購入やポストへの投函に同行している。馴染みの美容室、カラオケ喫茶に出かけるなど、趣味や好きな事が継続できるようにレクリエーションにも取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイルームに集まり、会話やゲームなどの支援を通じて関わり合いが増えるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人や家族の必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、暮らし方の希望、意向については見守り、観察し、把握に努めている。また、本人に直接尋ねる事もある。	会話の中で外出や食事の希望を聞き、ドライブに出かけたり、鰻や刺身料理を提供している。フェイスシートの暮らしの情報で、趣味や嗜好を把握し意向に沿って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、本人と面談し、生活や施行などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介助や見守りを通じ、心身状態や能力などの把握に日々努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活環境向上のため、介護計画作成には職員間の意見交換を中心に本人、家族、医師らの意見反映に努めている。	3か月ごとに短期目標のモニタリングを行い、長期目標を6か月ごとに見直し更新計画作成している。介護計画の作成に参加している職員もいる。日々の介護記録は計画表や支援内容を記載した記録票を参照して行き、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の送りりと利用者の個別記録を毎日積み重ね、職員間での情報共有に努め、適時介護計画を見直し、実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化によるニーズに応えられるよう、利用者の書いた手紙を投函するなど柔軟なサービス対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりに自立支援を主とした文化的生活を安全に享受して頂くため、近隣業者から日用品、衣料、寝具、牛乳、ケーキなど配達を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族に連絡、そうだんを行い、利用者に合った医師や病院の治療が受けられるよう支援している。	基本的には、かかりつけ医の受診を継続し殆ど事業所に対応している。適切な治療方針を家族と話し合い、医療機関を変更することもある。意向や重度化などの事情により、協力医療機関の訪問診療を受けている利用者もいる。	

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、素早い対応で介護職員で指示を出し、利用者に必要な受診、看護の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、必要な情報は病院に伝え、利用者が安心して治療が受けられるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になった場合は、本人、家族、主治医と対応について話し合う事を契約時に説明している。	利用開始時に、重度化や看取りの対応指針の中で経口摂取ができない場合は対応が難しいことを説明し同意を得ている。主治医の下でミキサー食や栄養補助食品を提供し、可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に訓練を行い、急変や事故に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2～3か月ごとに防災訓練を行い、年2回消防署から直接指導を受けている。	年2回消防署の指導の下で夜間を想定した避難訓練を行い、町内会役員の参加を得ている。また昼夜を想定した自主訓練も4回実施している。内部研修で水害の避難について確認し、今後は地震を想定し各ケア場面での対応を話し合う予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人としての尊厳が守られるよう配慮し、敬老に努めている。	利用者に優しくゆっくり話かけるように標語に明記し、毎朝唱和している。不適切な対応があれば伝達ノートに記載して、全職員に注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と会話などのコミュニケーションをとり、行動を見守る事で本人の思いや希望を感じ、自己決定を促す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れは決まっているが、可能な限り本に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問理容を利用している。整容行動の支援も必要に応じて行っている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は職員が行っているが、下準備、食器拭き、下膳の一部は利用者が行っている。	利用者の食べたい物を聞いて献立に取り入れたり、畑の作物と一緒に収穫してミニトマトや大根など旬の味を楽しんでいる。季節に応じて庭で流しそうめんをしたり、数人で外出に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立と食材は業者を利用しているが、食事量やミキサー食、トロミ材の使用など利用者に合った個別の調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声掛け見守り、必要に応じて介助をして行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便の記録を取り、個別に排泄を促す運動やトイレ誘導などを支援している。	自分でできる行為を行って貰えるように言葉かけを工夫しながら、自立に向けて積極的に取り組んでいる。利用者の状況に応じて日中はトイレやポータブルトイレでの排泄を支援し、夜間のみ排泄用品の交換などで対応する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防としてヨーグルトなどの摂取や体操を行っている。対応としては、主に下剤調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を介助している。利用者の都合により、入浴日や時間は変更している。	日曜日以外の午前中を中心に、週2回の入浴を支援している。体調や身体状況に応じて半身浴やシャワー浴で対応することもある。本人の好きな湯加減で、職員とゆっくり話をしながら楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせ、就寝の声掛けや介助をしている。安眠しやすいよう、寝具の清潔や安全に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用の目的、用法など薬の変更があるたびに職員に伝達されており、薬の変更後の症状変化の観察もその都度伝達され、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや日常会話、テレビや雑誌などの情報、作業療法としての軽作業参加と本人が楽しめる刺激を模索し支援している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望については、家族、知人、ヘルパーの同伴で予定を立てて外出している。4月～10月は安全に配慮の上、毎日ホームの裏庭で散歩をしている。	花見や紅葉見学で季節感を味わったり、ドライブでマイカル小樽に出かけて買い物や食事を楽しんでいる。普段の買い物にも利用者と一緒に出かけたり、夏季にアイスクリームを食べに花園公園に行くこともある。冬季も受診で外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能で本人の希望があれば、外出時にお預かりしているお金を渡し、買い物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話、手紙の支援をしているが、力がある方で急がない内容であれば手紙をお勧めしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の演出として、お正月、節分、お雛様、七夕、クリスマスなどの飾り付けをしており、衛生に留意した生活空間の確保に努めている。	開放感のある居間の窓から、広々とした庭や季節の花を楽しみながら落ち着いて過ごすことができる造りになっている。廊下に個別の収納スペースがあり、季節外の衣類や布団などを保管して居室を広く使用できるように工夫している。室内階段は、安全に昇降できるように交互に配色を変えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が混乱しないよう、デイルームでの席は決まっているが、食事以外の時は他の席に座って過ごされる時もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり居室を本人と家族が相談し、自由に居心地よく暮らせるように支援し、安全面では助言している。	持ち物を収納しやすいように、各居室にチェストを備え付けている。テレビや鏡、好きな本を持ち込んだり、CDラジカセで趣味の音楽を楽しんでいる方もいる。自分の作品や家族の写真などを飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事務所から伸びる廊下にある全居室が一望でき、トイレは一か所にまとめて配置され、迷う事はあまりなく、廊下、浴室、トイレに手すりを設置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 2階 みかん		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今日一日を楽しく愉快に朗らかに」過ごせるよう、支援します」を標語とし、朝の申送りの時、出勤者全員で声を出し復唱、自覚し、利用者さんには常に優しく笑顔で接するように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のケアをする上で大切な事は利用者に対し、優しく穏やかに話しかける事として理念の一つとして毎朝復唱している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の役員会議、除雪場所の提供、廃品回収に参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区連合会の方、町内の民生委員の方などに特に独居生活をされている高齢者に対する生活への取り組みについて、機会あるごとに話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活のサービスの中心は利用者が楽しく愉快に朗らかに1日を過ごしたかどうかを反省してサービス向上につなげる機会としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム運営に対し、疑問点があれば早期にアドバイスを受け、実施できるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドより転倒しそうな利用者には床にマットを敷き、車イスより立ち上がろうとする方には事務所に入ってもらい見守りをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いには特に注意し、朝、申し送り時優しく話すよう理念のなかに共有し、復唱している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム利用者の中に後見制度を利用されている肩があり、日常生活について話し合う機会があり、参考にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定内容については入所時や改定時に利用者や家族に対して理解・納得して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関してホームでの日常生活において、希望・不満などがあれば、家族面会時、利用者と共に意見を聞いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、申し送り時や月末の会議の時、問題点があれば、話し合い、解決策を検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より働きやすい環境で働けるよう、職員間のチームワーク、コミュニケーションの必要性を話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量は違う事を全員に説明、理解してもらい、個人の仕事に対する批判などを言わないよう指導したり、内外の研修に参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や親睦会や同業者の指導を受けるなどをして、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、ホームの生活に慣れて頂くことが大切であり、心配や不安、疑問点などを機会あることに話しかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、ホームでの目標等を本人や家族に説明し、内容についての疑問点などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所して利用者や家族が一番に希望していることを聞き、説明と理解をして頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、生活の中で日常生活がスムーズに経過できるように本人の考えを出来る限り取入れ指示、命令などの態度を取らないよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者の生活状況を説明したり、病院受診の時の内容を説明し、時には受診の同伴をお願いし、共に協力して支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室や時々カラオケ喫茶に行ったり、買い物をしている。友人知人の訪問があれば、歓迎しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者が孤立しない様に、朝の洗面、食事の時、レクの時に何かと声掛けをして楽しく穏やかに過ごせるよう努めている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、特に入院等による退居は機会あるごとに利用者の様子を聞いたり相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活をしていく上で希望している事、特に食事に対する希望を聞いたり、行きたい場所等を話し合い、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに来る前の生活を聞いたり、楽しかったことなどの思い出を聞いてホームの生活を思い出のするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活を尊重し、身体面や精神面に対し、安定して過ごせるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活において何か課題が発生した場合、身体面においては早期発見と受診、精神面においては本人、家族、職員と話し合い、介護計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護は介護計画に基づいて実践しているが、何か問題点が発生したら、サービス担当者会議を開き、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人の利用者が生活していく上で、一つの固定観念にとらわれることなく、いろいろな面から支えていくよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の民生委員、商店への買い物、美容室、衣料店、専門医の受診、郵便などの支援を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体的、精神的に重くなった利用者に対し、本人、家族とそうだししながら訪問診療を受けられるよう話し合っている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はホーム内での利用者の身体的、精神的な情報を捉え、適切な対応ができるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する時、必ず介護添書を提出している。入院中は面会に行ったり、医師から症状を聞き家族に報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化することが考えられる時、ホームとしての方向付けとして、食べない、飲めない場合、老人病院への転院を余儀なくされることを十分に説明しながら方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した場合の心肺蘇生法や誤嚥時の対応について、内部研修時、実践訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの避難訓練は年4回、消防職員立ち合いで年2回訓練を実施している。火災が起きた時、民生委員、町内会長に通話できるような体制を築いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに話しかける時は優しくゆっくりと話しかけるを朝の送り時毎日復唱し、職員一人一人が意識して対応できるよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者に常に話しかける機会を設け、どんなことでも気軽に相談してらえる雰囲気づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、出来る限りマイペースで生活が送れるように見守りを中心とした支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の更衣時、本人に希望する衣服を選択してもらったり、毛染めの希望を聞き、美容室に出かけている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はヘルパーが作っているが、台所がデイルームの前に設置してあるので、調理の完成まで利用者が見る事ができ、食事内容について話が弾んだり、特別メニューを実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の管理栄養士による献立に基づいて調理しているが、特に揚げ物の内容には特に注意し、。バランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアの介助を実施している。その時、口腔状態の観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の有無の働きかけやトイレの便器に座らせて様子を見るなど、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時、便秘薬ばかりにたよるのではなく、歩行、屈伸、下肢運動を試みたり、水分の調整を試みたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、入浴時間は決めているが、本人が身体的、精神的及び血圧、脈、体温などに変化を感じた時は臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に起床時間、就寝時間は特に決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」「検査報告書」は介護記録帳にファイルし、受診記録は別にファイルを作り身体症状等に変化があれば確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、生活していく上で本人の希望があれば洗濯物を干したり取り入れたりを手伝ってもらったり、チラシでのゴミ箱作りをしたり、塗り絵での気分転換を支援している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々、気分転換を図る為、スーパーや近くの焦点におやつや食事に必要なものを買いに出かけたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前、自己管理をして頂いたことがあったが、紛失してしまった。買い物時に本人に渡したり、一カ月に1回通帳や小遣い帳を見せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、家族、友人、知人、世話になっている方に電話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、ほとんどデイルームで過ごされるので、植物や花、金魚等を観賞用に置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームの空間を利用し、1人で過ごせるイスを用意しあり、テレビ鑑賞、ラジオを聞けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室は自由に家族と相談しながら配置している。鳴れた物品、位牌など自由に持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため、廊下、洗面所、浴室などに手すりを設置し、建物内部を段差内バリアフリーにしている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 有限会社グループホーム幸

作成日：平成 30年 5月 13日

市町村受理日：平成 30年 5月 25日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議において、家族の参加が少ない。ある家族は土日であれば時には参加できるかもしれないとの意見がありました。	一人でも多く、家族の参加を増やす。	①会議案内書を送り、不参加の方には議題にしたい内容があれば書いて頂く。 ②議事録を送る。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。